
巻 頭 言

本学会の機関誌『パーソナルファイナンス研究』（No. 6）をお届けします。

ICTやAIの進展に伴い、パーソナルファイナンス分野においても様々なイノベーションが進んでおります。フィンテックとも呼ばれるこうした動きがパーソナルファイナンス産業に大きな変革を迫っていることは言うまでもありません。実際、海外、特にアジア地域においてはめざましい勢いで変革が進んでいます。その一方で、金融イノベーションと法との乖離にも注目が集まっています。

本号も、このようなパーソナルファイナンスをめぐる環境や時代の変化を反映した多彩なテーマの論文を掲載しています。査読付き論文として「中国 P2P ネット金融規制について」、「ライドシェアにおける運賃の意識と利用との関係性からみた考察」の2編、招待論文として「仮想通貨と有価証券性と地域金融における可能性～ICOとクラウドファンディングやソーシャルレンディングとの接点と規制枠組みの在り方～」、「東南アジアにおけるフィンテックの台頭とキャッシュレス化の動向」、「中国 P2P ネット金融の投資家は本当に賢いか?」、「ファクタリングを偽装したヤミ金融の被害に関する事例調査」の4編を掲載しています。いずれの論文も、パーソナルファイナンス分野における最先端の課題を議論したもので、内容的に興味深いだけでなく、学術的にも貴重なものといえます。

これらの論文は、主に本学会の昨年度の全国大会での統一論題および自由論題をベースにしたものです。ICTやAIの進展により、新しい研究課題が次々と登場してきています。これは、本学会にとって新たな機会を与えてくれるものといえます。本機関誌はそのような新しい研究課題に挑戦し、その成果を世に問う場を与える場を提供することによって、社会的役割を果たしていきたいと考えています。

なお、本機関誌では、全国大会での研究報告にこだわらず、平素の研究活動の成果を積極的に寄稿していただければと考えています。会員の皆様のいっそうの寄稿をお願いする次第であります。

2019年12月

パーソナルファイナンス学会
会長 坂野友昭